

《名画の扉》

大川美術館から



「凍林」

1960年、紙本彩色
113.0cm×146.3cm

加山又造

(1927-2004年)

加山又造が、戦後の然のなかにカラスを描いた。花鳥風月にとどまらず、注目される「美しさ」を若々しい作品です。それは正反対の世界を描いてみせたのです。

静かき、冷たき、変わらうとする戦後のそのなかの混沌（こんとん）。いてつく空気のなかでくりひろげられる自然界の非情な場面です。作者の情熱と自信が背後にみま

「私は、冬が限りなく好きである。冬の持つ冷たく透明な厳しさが、好きなのである」と語り、好んで冬の自

(田中)